

みんなでつくる共に生きる社会 ～ケニアの障がいのある子どもたちから学ぶ～

日時：2025年11月2日(日) 10:40～12:10

場所：帝京大学板橋キャンパス 第一会場(臨床大講堂)

演者：公文和子(シロアムの園代表)

座長：神谷保彦(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授)

どなたでも無料で参加頂けます。<https://www.pco-prime.com/40jagh/registration.html>
または、QRコードから事前申し込みを行ってください。



【概要】

「誰一人取り残さない」を掲げるSDGs(持続可能な開発目標)は、多様な「違い」を尊重し合い、共に生きる社会の実現を目指しています。しかし現実には、国籍や文化、年齢、性別、障がいの有無などの「違い」が偏見や孤立を生み、社会の一員として歩むことを難しくされた人々が世界中にいます。こうした脆弱な人々の視点や、目標達成のプロセスにおける彼らの参加は不可欠ですが、現状では取り残されているのです。障がい児とその家族もその一部に含まれます。

本講演では、演者がケニアに創設した施設「シロアムの園」で、障がいのある子どもたちやその家族と共に歩んできた経験をもとに、誰もが尊重される社会のあり方を考えます。現地での取り組みから見てきた課題や学びを通して、「違い」を受け入れ、互いの力を活かし合う仕組みや意識の大切さを共有します。

さらに、パネルディスカッションでは、地域で福祉活動を続けてきた実践者や障がい児の家族、教育分野の専門家を迎え、私たち一人ひとりにできることを共に考えます。



公文 和子
小児科医/博士(医学)
シロアムの園代表

演者プロフィール

1968年 和歌山県生まれ。1994年 北海道大学医学部を卒業、道内各地の病院で勤務後、イギリスで熱帯小児医学を学びシエラレオネへ。以降は世界各地で医療活動を続け、2002年からケニアで本格的に活動を始め、2015年、ケニアのナイロビ郊外に障がい児とその家族のための施設「シロアムの園」を創設。

パネルディスカッション参加者

- ・加藤 勉
板橋区ともに生きる福祉連絡会・いたばし協働推進センター
- ・塩尻 輝雄
板橋区福祉のまちをつくろう会
- ・中村 恵子
北区肢体不自由児者父母の会
- ・大安 喜一
ACCU ユネスコ・アジア文化センター



「シロアムの園」では、一人ひとりの子どもの特性やニーズに寄り添い、様々な角度からの包括的ケアを行っています。「シロアムの園」という名称は、イエス・キリストが盲人を癒やした池の名前に由来しています。